

— キキョウ —



東京理科大学 薬草園

学名 : *Platycodon grandiflorus* A. DC.

科名 : キキョウ科

属名 : キキョウ属

形態 : 東アジア温帯自生の多年草. 茎は直立. 葉は互生し, 短柄. 葉身は長楕円形で鋭頭, 鋸歯縁. 夏秋, 白色又は青紫色の広い鐘状花を頂生または腋性. さく果は球形, 種子多数を内蔵.

英語名の *balloon flower* の通り紙風船のようなつぼみをつける.



↑つぼみ



↑葉は互生



↑鋸歯縁

成分 : platycodin A, C, D などのサポニン

使用部位 : 根

用途 : 鎮咳去痰薬, 漢方では強壯, 排膿, 咽喉痛を目標に用いる.

製剤 : 五積散, 十味敗毒湯, 柴胡清肝湯, 防風通聖散

多くの頭花植物が炭水化物をグルコースからなるデンプンで貯蔵するのに対し, キキョウ目の植物はフルクトースからなるイヌリンで貯蔵する.

キキョウの根はサポニンを含み, 外観がニンジンに似ているため, ニンジンの偽物として安価なキキョウが出回ることがあるが, デンプンを含まないキキョウはヨウ素液を滴下しても, 青紫に呈色しない. この点でニンジンと見分けることができる.

また, 環境省の出しているレッドデータブックによると, 近年キキョウの野生株が減少しており, 絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている.*

*日本薬局方 17 局において生薬の基原植物で, 絶滅危惧種に指定されているのはキキョウ, ミシマサイコ, ムラサキ, ハマビシ の 4 種

参考

水野瑞夫 薬用植物学 改訂第七版 南江堂

西岡五夫 北川勲 生薬学 第八版 廣川書店

生物多様性情報システム J-IBIS

https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/?_ga=2.95752924.1994487379.1530245455-126057779.1530245455